

教科名 **建築数学**

	前期	後期	総単位
単位数	1	-	1

開講学科 建築学科 1年
建築設計デザイン科 1年

担当教員 柴田 達也 実務経験: 一般教員

目的	建築を学ぶ上で必須となる数学の基礎知識を学び、建築設計、構造力学、環境工学、建築法規等の数字・計算を必要とする科目の理解に繋がる下地をつくる。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 工業数学の概要 … 目的・進め方・定期試験について等	①
	② スケール感 ① … 単位の仕組み	②
	③ スケール感 ② … さまざまな単位	③
	④ さまざまな事象について計算をする① … 四則演算・分数を含む計算	④
	⑤ さまざまな事象について計算をする② … 比の計算・公式の活用・比例反比例	⑤
	⑥ 建築設計と図形 … 図形と幾何学・直線と角度・形状の美しさ	⑥
	⑦ 1D(線)を扱う建築事象 … 長さの測定・三角比の利用・測量への応用	⑦
	⑧ 2D(多角形)を扱う建築事象 … 図形の面積・建ぺい率と容積率	⑧
	⑨ 3D(立体)を扱う建築事象 … 立体の体積・質量と力	⑨
	⑩ 1D・2D・3Dのまとめ	⑩
	⑪ さまざまな事象について解を求める	⑪
	⑫ 力を扱う建築事象	⑫
	⑬ 全体のまとめ	⑬
	⑭	⑭

評価方法	中間試験・期末試験(計2回)による100点満点の平均点数(平常点も含む)
------	--------------------------------------

教科書教材	教科書	教材	備考
	超入門・建築数理(市ヶ谷出版社)	教員オリジナルプリント	

その他	
-----	--

教科名 就職研修(硬質書写)

	前期	後期	総単位
単位数	-	0.5	0.5

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 若狭 聖子 実務経験: 一般教員

目的	就職活動の応募書類(履歴書)を丁寧に心を込めて書き、読み手が読みやすいような書き方、また面接後のお礼状、封筒の宛名書きなど、就職内定にむけての技能の向上を図る。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	①	
②		② 履歴書を仕上げる(ひな型とする)
③		③ 履歴書添え状などの書き方
④		④ 封筒の宛名書き
⑤		⑤ 面接後のお礼状の書き方
⑥		⑥ 内定のお礼状の書き方
⑦		⑦
⑧		⑧
⑨		⑨
⑩		⑩
⑪		⑪
⑫		⑫
⑬		⑬
⑭		⑭

評価方法	受講態度、出席状況、課題提出などをもって総合的に評価する100%
------	----------------------------------

教科書教材	教科書	教材	
	就活本や、ペン習字の冊子より適時、引用(指導者抜粋)	教科書の引用部分をプリントアウトする 学校指定の履歴書を活用	

その他	履歴書用の最適な筆記用具必須
-----	----------------

教科名 就職研修(表計算・ワード)

	前期	後期
単位数	-	0.5

総単位
0.5

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 川淵 彩子 実務経験: 一般教員

目的	現場で必須である、Excelを使用しての簡単な表作成やWordを使用するのビジネス文書の作成(社内・社外文書等)等、実務経験をもとにPCと一般的な事務知識を習得する また、日本情報処理検定協会主催のWordやExcelの検定試験対策をし、1人でも多くの資格取得を目指したい
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
		① Excelを使った簡単な表計算
		(SUM, AVERAGE, IF, VLOOKUP, ROUND, MAX, MIN, OR, AND, COUNT等)
		③ グラフの作成・データベース
		④ 2級までの検定問題
		⑤ 社内文書・社外文書作成

評価方法	定期試験をもとに100点満点で採点する。
------	----------------------

教科書 教材	プリントを使用する		
-----------	-----------	--	--

その他	
-----	--

syllabus

教科名 **建築史**

	前期	後期
単位数	1	-

総単位	1
-----	---

開講学科 **建築学科1年**
建築設計デザイン科1年

担当教員 **井潤 裕**

実務経験: **一般教員**

目的	西洋建築史と日本建築史の基本的な知識を習得して、建築技術者としての基礎的な教養を確立する。建築構造やデザインの起源や背景事情を学ぶことで、建築のもつ社会的・歴史的意義を理解して、建築分野の専門知識を感得するための基盤を醸成する。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 講義の概要・オリエンテーション 西 西洋古代① エジプト・メソポタミア ② 西洋古代② 古代ギリシア 西 西洋建築の源流古典的オーダー ③ 西洋古代③ 古代ローマ 古代における建築技術の集大成 ④ 西洋中世① 初期キリスト教・ビザンチン 建築 教会建築の淵源 ⑤ 西洋中世② ロマネスク建築 西ヨー ロッパにおける建築技術の復興 ⑥ 西洋中世③ ゴシック建築 より高く、よ り明るい教会堂建築への模索 ⑦ 中間テスト 西洋建築史 ⑧ 日本古代① 飛鳥・白鳳期の仏教建築 法隆寺と和様の展開 ⑨ 日本古代② 平安時代の仏教建築 密 教寺院や阿弥陀堂など国風文化の影響 ⑩ 日本古代③ 神社建築 古代から平安 時代に至る神社建築の諸様式 ⑪ 日本古代④ 都城と住宅建築 条坊制と 平安京・寝殿造への道程 ⑫ 日本中世① 鎌倉期の宗教建築 大仏 様・禅宗様と仏教寺院の習熟 ⑬ 日本中世② 武家住宅と座敷 封建文 化の影響と和風建築の淵源 ⑭ 期末テスト 日本建築史 ⑮	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数
------	-------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考

その他	2級建築士
-----	-------

教科名 建築一般構造

	前期	後期
単位数	1	1

総単位	2
-----	---

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 山本 崇仁 実務経験: 建築施工管理・建築設計

目的	建築物の構造体の分類と各種工法についての学習と、二級建築士試験で中心となる木構造と、鉄筋コンクリート造・鉄骨造等の基本を学び、建築施工との関連を理解することを目標とする。
----	---

実務経験の生かし方	施工管理の実務経験を通じて、最低限建築の仕事で困らない程度の知識は全体的に押さえ、建築士試験の問題の範囲も盛り込んでいく。また、安心・安全な建物の基本について学び、実務経験に基づいたエピソードを交えながら説明する。
-----------	---

授業概要	前期	後期		
	①	・建築工法の変遷 ・構造、構法の分類	①	・RCの構造形式と構造原理 ・コンクリートの材料構成
	②	・各種構造の特徴 ・設計図書	②	・鉄筋の種類と強度 ・鉄筋の加工、かぶり厚さ、定着
	③	・木材の性質、強度 ・製材の呼称、木材の変形	③	・ラーメン構造の構成 ・基礎の種類
	④	・軸組み工法の部材構成	④	・柱の構成 ・梁の構成と配筋
	⑤	・建て方順序、仕口	⑤	・スラブの構成 ・壁の構成
	⑥	・地盤調査、配筋、やりかた	⑥	・内外装各部の仕上げ ・階段の構成
	⑦	・基礎の構成 ・柱の構成、小径、緊結	⑦	・壁式構造 ・鉄骨鉄筋コンクリート工法
	⑧	・横架材(梁)	⑧	・鉄骨造の構造形式 ・鋼材の形状と柱、梁の種類
	⑨	・小屋組みの構成 ・屋根の形状と名称	⑨	・接合方法(高力ボルト接合) ・架構の構成と建て方
	⑩	・筋交いの構成、壁量計算	⑩	・床、外壁の構成
	⑪	・壁量計算・四分割法	⑪	・内部空間名称、外部空間名称
	⑫	・柱頭 柱脚金物の設置基準	⑫	
	⑬	・壁の構成・床の構成	⑬	
⑭	・接合方法、金物の種類	⑭		

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数による。但し、平常点(授業態度)による評価(加点・減点)あり。
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	図解 やさしい一般構造 (学芸出版社)	確認テスト(毎授業配布)	

その他	二級建築士学科試験の建築構造に関連する内容とする。
-----	---------------------------

教科名 建築材料

	前期	後期
単位数	1	1

総単位	2
-----	---

開講学科 建築設計デザイン科 2年
建築学科 2年

担当教員 柴田 達也 実務経験: 一般教員

目的	建築材料学は、建築空間を構成する基本となる素材の学習である。建築材料を構造材料と仕上材料に大別し、材料の歴史的な使用方法から、現在の新しい構造・構法などを通して用いられる材料の特性・使用方法を学び、資源の枯渇・環境問題等、今後の建築材料のあり方など、現在の現場における仕様を実務経験をふまえて教える。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	<p style="text-align: center;">前期</p> <p>① 1-1建築材料の歴史 1-2 建築材料と規格</p> <hr/> <p>② 1-3建築材料と環境 1-4建築材料の分類 1-5 建築材料と性能</p> <hr/> <p>③ 2-1日本建築と木材 2-2木材の種類 2-3木材の特徴 2-4木材の強度</p> <hr/> <p>④ 2-5木材の構造 2-6木材と水分</p> <hr/> <p>⑤ 2-7木取り、規格、等級 2-8エンジニアリングウッド</p> <hr/> <p>⑥ 3-1コンクリートとは 3-2セメント</p> <hr/> <p>⑦ 3-3骨材 3-4水 3-5混和材料</p> <hr/> <p>⑧ 3-6コンクリートの性質 3-7コンクリートの調査設計 3-8コンクリートの種類 3-9コンクリートの製品</p> <hr/> <p>⑨ 4-1鉄の歴史 4-2鋼材とは 4-3鋼材の性質</p> <hr/> <p>⑩ 4-4鋼材の特徴 4-5鉄鋼の種類 4-6鋼材の性質</p> <hr/> <p>⑪ 4-7鋼材の腐食と防食 4-8鋼材の規格</p> <hr/> <p>⑫ 4-9非鉄金属</p>	<p style="text-align: center;">後期</p> <p>① 5-1焼成品は焼き物 5-2タイル 5-3れんが</p> <hr/> <p>② 5-4瓦 5-5衛生陶器</p> <hr/> <p>③ 6-1ガラスとは 6-2ガラスの歴史</p> <hr/> <p>④ 6-3ガラスの特徴 6-4ガラスの種類</p> <hr/> <p>⑤ 6-5石材とは 6-6石材の特徴 6-7石の分類</p> <hr/> <p>⑥ 7-1左官とは 7-2左官の起源と定義 7-3左官の特徴</p> <hr/> <p>⑦ 7-4近年の左官仕事 7-5左官の種類</p> <hr/> <p>⑧ 7-6ボード類</p> <hr/> <p>⑨ 8-1プラスチック材料 8-2塗料 8-3接着剤</p> <hr/> <p>⑩ 9-1はじめに 9-2床仕上材</p> <hr/> <p>⑪ 9-3壁仕上材 9-4天井仕上材</p> <hr/> <p>⑫ 9-5防水材料 9-6防火材料 9-7耐火材料 9-8断熱材料 9-9防音材料</p>
------	---	---

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数
------	-------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	やさしい建築材料 (学芸出版社)		

その他	
-----	--

教科名 **建築計画**

	前期	後期	総単位
単位数	1	1	2

開講学科 **建築学科1年**
建築設計デザイン科1年

担当教員 **大脇 久美** **実務経験:** **一般教員**

目的	建築設計の基本となる計画分野を、住宅や教育施設、商業施設といった用途別で習得する。まずは、身近な建築物を具体例に授業を進め、自分の身のまわりにある事柄として、親近感を持ってもらうことが授業の最大の狙いである。また、計画分野は、一級建築士試験や二級建築士試験に必ず出題されるため、将来の試験を見据え、目的を理解した上での前向きな学習を推奨したい。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期 ガイダンス / 建築計画の概要	後期
	① 居住施設の計画(1)	① 社会教育施設の計画(1)
	② 居住施設の計画(2)	② 社会教育施設の計画(2)
	③ 居住施設の計画(3)	③ 社会教育施設の計画(3)
	④ 居住施設の計画(4)	④ 社会教育施設の計画(4)
	⑤ 居住施設の計画(5)	⑤ 社会教育施設の計画(5)
	⑥ 中間試験	⑥ 中間試験
	⑦ 細部計画	⑦ 商業施設の計画(1)
	⑧ バリアフリー対策	⑧ 商業施設の計画(2)
	⑨ 学校教育施設の計画(1)	⑨ 商業施設の計画(3)
	⑩ 学校教育施設の計画(2)	⑩ 商業施設の計画(4)
	⑪ 学校教育施設の計画(3)	⑪ 商業施設の計画(5)
	⑫ 学校教育施設の計画(4)	⑫ 商業施設の計画(6)
	⑬ 期末試験	⑬ 期末試験
	⑭	⑭
⑮	⑮	

評価方法	中間試験・期末試験(各100点満点の各平均(小数点以下切り捨て))にて評価
------	---------------------------------------

教科書 教材	教科書 建築計画(市ヶ谷出版社)	教材	備考
-----------	---------------------	----	----

その他	
-----	--

教科名 **環境工学**

	前期	後期	総単位
単位数	1	1	2

開講学科 **建築学科 2年**
建築設計デザイン科 2年

担当教員 **戸巻 美樹** 実務経験: **一般教員**

目的	建築を取り巻く様々な自然環境や都市環境、また人間の快適条件を学んだ上で、快適な建築環境の作り方・手法を教える。熱・空気・光・音などの基礎知識が実務の設計でどのように有効に使われるかを実例をあげながら説明する。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

	前期	後期
	授業概要	① 建築環境の概要 ② 気候①/気候と建築、気温、湿度 ③ 気候②/空気線図、風、雨と雪 ④ 気候③/室内気候(温熱要素、温熱環境の指標) ⑤ 伝熱と結露①/伝熱の基礎、熱貫流 ⑥ 伝熱と結露②/熱貫流の計算 ⑦ 伝熱と結露③/断熱の効果、断熱の計算 ⑧ 伝熱と結露④/熱容量、外断熱と内断熱、蓄熱、結露 ⑨ 換気と通風①/室内の空気汚染 ⑩ 換気と通風②/換気目的、必要換気量・換気回数計算 ⑪ 換気と通風③/自然換気(風力換気・重力換気)、通風 ⑫ 換気と通風④/換気の種類、換気に関する法規、通風 ⑬ ⑭ ⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点評価
------	----------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築環境・設備(学芸出版社)		

その他	
-----	--

教科名 **建築法規 I**

	前期	後期	総単位 2
単位数	1	1	

開講学科 **建築学科1年
建築設計デザイン科1年**

担当教員 **矢野 倫大** 実務経験: **建築設計**

目的	わが国の建築に関する法律の目的・役割を理解した上で、条文の構成・表現を学び、建築基準法の基本的な知識を身に付けることをねらいとする。担当教員の一級建築士の実務経験をもとに、個々の建築物に対する規定である単体規定について説明し、建築物を計画・設計するうえで必要な法律上の知識を身に付ける。また、建築施工 I の授業の内容を踏まえ、各種手続についても学ぶ。
----	--

実務経験の生かし方	1年次は、主に建築基準法の単体規定を中心に学習することから、採光や換気および一般構造や内装制限に関する規定について学ぶうえで、携わった工事についてスライドやプリント等の教材で紹介し、学生の理解を深めるために活用する。また、各種手続についても経験に基づいたエピソードを交えながら説明する。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	① 建築基準法の概要 1)建築法規の体系 2)法令集のセットアップ	① 防火に関する材料 1)不燃材料、準不燃材料、難燃材料 2)耐水材料
	② 用語の定義① 1)建築物の定義 2)特殊建築物の定義	② 耐火建築物・準耐火建築物 1)耐火建築物の要件 2)準耐火建築物の要件
	③ 用語の定義② 延焼のおそれのある部分	③ 内装制限① 1)内装制限を受ける建築物 2)内装制限を受ける特殊建築物
	④ 用語の定義③ 1)主要構造部 2)耐火・防火 3)耐火性能の技術的基準	④ 内装制限② 1)内装制限を受ける大規模な建築物 2)内装制限を受ける火気使用室、無窓の居室
	⑤ 用語の定義④ 1)建築面積の算定 2)床面積の算定 3)延べ面積の算定	⑤ 内装制限③ 1)法別表1の特殊建築物の内装制限 2)自動車車庫等、特殊建築物の地階の居室の内装
	⑥ 用語の定義⑤ 1)地盤面 2)建築物の高さ 3)軒の高さ・地階	⑥ 手続き① 1)確認申請の概要 2)建築手続きに関する用語 3)規模により確認申請を必要とする建築物
	⑦ 一般構造① 1)居室の定義 2)天井高さ 3)床高さ・床下の換気	⑦ 手続き② 1)工作物の確認申請 2)仮設建築物の確認申請 3)用途変更する場合の確認申請
	⑧ 一般構造② 1)用途地域の概要 2)居室の採光に関する規定	⑧ 手続き③ 1)中間検査 2)完了検査 3)仮使用の申請
	⑨ 一般構造③ 1)居室の採光に関する計算 2)採光を確保するために必要な距離の算定	⑨ 手続き④ 1)違反建築物の建築の防止 2)届出及び統計 3)その他各種手続き
	⑩ 一般構造④ 1)居室の換気の概要 2)自然換気設備 3)機械換気設備	⑩ 防火地域・準防火地域内の建築物
	⑪ 一般構造⑤ 1)中央管理方式の空気調和設備 2)特殊建築物の居室の換気設備 3)火気使用室	⑪ 防火地域・準防火地域の内外に関わらず耐火建築物・準耐火建築物等にしなければならない特殊建築物

評価方法	中間試験と期末試験を実施し、100点満点の平均点で前期と後期の評価とする。各試験は初級レベル6割、中級レベル3割、上級レベル1割の出題構成とし、合格は50点以上とする。尚、毎回の授業で理解度を確保するための小テストを実施するが、成績には加味しない。
------	--

教科書教材	教科書	教材	備考
	建築関係法令集 法令編 (総合資格学院)	講師オリジナルプリント	

その他	二級建築士学科試験の法規に関連する内容となる。定期試験の際、法令集は持ち込み可とする。
-----	---

教科名 **建築法規Ⅱ**

	前期	後期
単位数	1	-

総単位	1
-----	---

開講学科 **建築学科2年
建築設計デザイン科2年**

担当教員 **矢野 倫大** 実務経験: **建築設計**

目的	1年次の建築法規Ⅰに引き続き、二級建築士学科試験の法規の出題範囲における防火および避難の規定について、その規定が必要な理由を考えながら学習することにより、法令の目的と内容をより深く理解することをねらいとする。後半では、集団規定について学習し、担当教員の二級建築士の受験経験をもとに作成した演習問題を繰り返し解くことで二級建築士学科試験に合格するための必要な知識の習得を目標とする。
----	--

実務経験の生かし方	2年次は、建築基準法の防火区画や避難規定および集団規定を中心に学習することから、それらの規定について学ぶうえで、実際に携わった工事についてスライドやプリント等の教材で紹介し、学生の理解を深めるために活用する。
-----------	--

授業概要	<p>前期</p> <p>① 防火区画① 1)防火区画の概要 2)高層階区画(令112条5項～8項) 3)堅穴区画(令112条9項)</p> <p>② 防火区画② 1)異種用途区画(令112条12項・13項) 2)面積区画の概要 3)面積区画(令112条1項～4項)</p> <p>③ 避難規定① 1)避難規定の概要(令117条) 2)避難経路 3)避難のための直通階段</p> <p>④ 避難規定② 1)メゾネット型住戸の歩行距離 2)2以上の直通階段を設けなければならない建築物</p> <p>⑤ 避難規定③ 1)重複区間の制限 2)避難階・屋上広場の規定 3)非常用の照明装置 4)非常用の進入口</p> <p>⑥ 道路① 1)道路の定義 2)位置指定道路 3)4m未満の道(2項道路)</p> <p>⑦ 道路② 1)道路と敷地との関係 2)道路内の建築制限 3)その他の制限</p> <p>⑧ 容積率① 1)延べ面積の限度の求め方 2)敷地が2以上の用途地域にわたる場合</p> <p>⑨ 容積率② 1)特定道路に接続する道路に接する場合の容積率の算定 2)「容積率算定用の延べ面積」の特例</p> <p>⑩ 容積率③ 1)建ぺい率の緩和・適用除外 2)敷地が防火地域の内外にわたる場合</p> <p>⑪ 用途地域① 1)用途地域の概要 2)用途地域内の建築制限 3)用途制限チェックのポイント</p> <p>⑫ 用途地域② 1)店舗併用住宅 2)建築物の敷地が異なる用途地域内にわたる場合</p> <p>⑬ 高さ制限の概要</p>	
------	---	--

評価方法	中間試験と期末試験を実施し、100点満点の平均点で前期と後期の評価とする。各試験は初級レベル5割、中級レベル4割、上級レベル1割の出題構成とし、合格は50点以上とする。尚、毎回の授業で理解度を確保するための小テストを実施するが、成績には加味しない。
------	--

教科書教材	教科書 建築関係法令集法令編 (総合資格学院)	教材 講師オリジナルプリント	備考
-------	-------------------------------	-------------------	----

その他	二級建築士学科試験の法規に関連する内容となる。定期試験の際、法令集は持ち込み可とする。
-----	---

教科名 構造力学 I

	前期	後期	総単位
単位数	2	2	4

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 銚館 亮治 実務経験: 一般教員

目的	力の表し方と性質を理解し、力のつり合いに大切な反力の理解と部材にかかる応力と架構に於ける各部の力の流れを理解させ、安全で長期に渡って安定した建物を造るために必要な建築構造の基礎知識を教える。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期 ① 建物の働く力 力の表し方 ② 力のモーメント ③ 1点に働く力の合成と分解 ④ 平行な力の合成と分解 ⑤ 平行でない力の合成と分解 1点に働く力釣合い ⑥ 作用点の違う力の釣合い ⑦ 支点と節点 荷重および外力 ⑧ 反力 反力の求め方 ⑨ 反力の求め方(片持ち梁) ⑩ 反力の求め方(単純梁) ⑪ 反力の求め方(静定ラーメン) ⑫ 反力の求め方(3ピンラーメン) ⑬ 建造物の安定・不安定 建造物の静定・不静定	後期 ① 建造物に生じる力 ② 集中荷重が作用する単純梁 ③ 等分布荷重が作用する単純梁 ④ 等変分布荷重が作用する単純梁 モーメントが作用する単純梁 ⑤ 集中荷重が作用する片持梁 等分布荷重が作用する片持梁 ⑥ 等変分布荷重が作用する片持梁 モーメントが作用する片持梁 ⑦ 片持梁系ラーメン ⑧ 単純梁系ラーメン ⑨ 3ピンラーメン ⑩ 静定トラス節点法(図式解法、算式解法) ⑪ 静定トラス(切断法) 部材の性質と応力度
------	---	--

評価方法	中間試験・期末試験 (授業態度を含め各100点満点の各平均(小数点以下切り捨て))にて評価
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	FirstStageシリーズ 建築構造設計概論	オリジナルプリント	

その他	
-----	--

教科名 構造力学Ⅱ

	前期	後期	総単位 2
単位数	2	-	

開講学科 建築学科2年
建築設計デザイン科2年

担当教員 山本 崇仁 実務経験: 一般教員

目的	建築物に働く力の基本的な知識を習得し、実際の構造物を合理的に設計するうえで、必要な基礎的なことを学び、部材に生ずる力に対して、安全かつ経済的な部材を設計する基礎を学ぶ。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 構造材料の力学的性質 垂直応力度・せん断応力度・ひずみ度	①
② 構造材料の力学的性質 弾性体の性質・材料の強さ等	②	
③ 構造材料の力学的性質 材料の強さと許容応力度	③	
④ 断面の性質 断面1次及び2次モーメント	④	
⑤ 断面の性質 断面2次モーメント・断面係数等	⑤	
⑥ 中間試験傾向と対策	⑥	
⑦ 部材に生ずる応力度 梁の曲げ応力度・縁応力度	⑦	
⑧ 部材に生ずる応力度 曲げ材の設計・引張材の設計	⑧	
⑨ 部材に生ずる応力度 圧縮材の設計	⑨	
⑩ 部材に生ずる応力度 たわみとたわみ角・モールの定理	⑩	
⑪ 不静定梁	⑪	
⑫ 期末試験の傾向と対策	⑫	
⑬	⑬	
⑭	⑭	
⑮	⑮	

評価方法	中間試験・期末試験(各100点満点の各平均(小数点以下切り捨て))にて評価
------	---------------------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築構造設計概論(実教出版)		

その他	
-----	--

教科名 **建築施工 I**

	前期	後期
単位数	1	1

総単位
2

開講学科 建築学科 1年
建築設計デザイン科 1年

担当教員 鉾館 亮治

実務経験： 建築設計・施工管理

目的	建築工事の種類と工法について、安全管理を念頭に入れた技術的・経済的な内容について学習。 施工準備から躯体工事について学習していく。
----	--

実務経験の生かし方	建築設計及び施工管理の実務経験を活かして建築の仕事伝えます。 現場でのエピソード等を交えて生徒に伝えたい。 講義は資料・現場写真等をプロジェクターで適時使用して講義する。
-----------	---

授業概要	前期	後期	
	①	施工準備と施工計画 建築施工とは、工事契約、積算	① 仮設工事と躯体工事 鉄筋コンクリート工事2(鉄筋1)
	②	施工準備と施工計画 施工計画	② 仮設工事と躯体工事 鉄筋コンクリート工事3(鉄筋2、型枠1)
	③	施工準備と施工計画 施工管理	③ 仮設工事と躯体工事 鉄筋コンクリート工事4(型枠2、コンクリート1)
	④	施工準備と施工計画 地盤調査	④ 仮設工事と躯体工事 鉄筋コンクリート工事5(コンクリート2)
	⑤	施工準備と施工計画 測量	⑤ 仮設工事と躯体工事 鉄筋コンクリート工事6(コンクリート3)
	⑥	仮設工事と躯体工事 仮設工事(共通仮設)	⑥ 仮設工事と躯体工事 鉄骨工事(工場作業)
	⑦	仮設工事と躯体工事 仮設工事(直接仮設)	⑦ 仮設工事と躯体工事 鉄骨工事(現場作業)
	⑧	仮設工事と躯体工事 土工事(工程、山留め壁)	⑧ 仮設工事と躯体工事 コンクリートブロック
	⑨	仮設工事と躯体工事 土工事(支保工、排水、根切り底)	⑨ 仮設工事と躯体工事 木工事1(在来軸組工法1)
	⑩	仮設工事と躯体工事 基礎事業工事(地業、既成コンクリート杭)	⑩ 仮設工事と躯体工事 木工事2(在来軸組工法2)
	⑪	仮設工事と躯体工事 基礎事業工事(場所打ちコンクリート杭他)	⑪ 仮設工事と躯体工事 木工事3(在来軸組工法3)、まとめ
⑫	仮設工事と躯体工事 鉄筋コンクリート工事1(概要)、まとめ		

評価方法	中間試験・期末試験 (授業態度を含め各100点満点の各平均(小数点以下切り捨て))にて評価
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	図解 やさしい建築施工(学芸出版社)	オリジナルプリント	

その他	
-----	--

教科名 建築施工Ⅱ

	前期	後期	総単位 1
単位数	1	-	

開講学科 建築学科 2年
建築設計デザイン科 2年

担当教員 出口 広訓 実務経験: 一般教員

目的	建築工事の進め方と管理についての技術的・経済的な内容について教える。各種工事の施工方法について最新の技術を教える。特に、設計監理者としての立場からの事例や注意点等をあげ、安全管理をはじめ、デザインや経済性、材料の特性などについて具体的かつ包括的な視点を持たせ理解させる。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
①	仕上・設備工事 防水工事	①
②	仕上・設備工事 屋根工事	②
③	仕上・設備工事 左官工事	③
④	仕上・設備工事 タイル工事	④
⑤	仕上・設備工事 張り石工事	⑤
⑥	仕上・設備工事 塗装工事	⑥
⑦	仕上・設備工事 建具工事、ガラス工事	⑦
⑧	仕上・設備工事 内装・断熱工事	⑧
⑨	仕上・設備工事 ユニット・その他工事、外装工事	⑨
⑩	仕上・設備工事 設備工事	⑩
⑪	機械と維持管理 施工機械、維持管理	⑪
⑫	まとめ及びポイント解説	⑫
⑬		⑬
⑭		⑭
⑮		⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数
------	-------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	やさしい建築施工 (学芸出版社)	オリジナルプリント	

その他	
-----	--

syllabus

教科名 **建築構造設計**

	前期	後期	総単位 2
単位数	1	1	

開講学科 **建築学科2年
建築設計デザイン科2年**

担当教員 **今 治宣** 実務経験: **建築構造設計**

目的	構造計画、構造設計の基礎知識を教える。 鉄筋コンクリート構造、鉄骨造に関して、二次部材の断面算定等の部材設計の流れを理解させ、二級建築士受験程度の知識を教えることに重点をおく。
----	---

実務経験の生かし方	敬遠されがちな教科であるため、多方面からの見方、考えた方を説明し苦手意識を取り除くように教える。 また、実務経験に基づいた事例を紹介し、構造設計を身近に感じてもらえるように説明する。
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 構造力学・基礎の確認と復習 鉄筋コンクリート構造① 1)RC概論-1 ② 鉄筋コンクリート構造② 1)RC概論-2 ③ 鉄筋コンクリート構造③ 2)仮定荷重 3)床の設計-1 ④ 鉄筋コンクリート構造④ 3)床の設計-2 ⑤ 鉄筋コンクリート構造⑤ 3)床の設計-3 ⑥ 鉄筋コンクリート構造⑥ 4)各部材設計の概要 5)二級建築士過去問題演習-1 ⑦ 鉄筋コンクリート構造⑦ 5)二級建築士過去問題演習-2 ⑧ 鉄筋コンクリート構造⑧ 5)二級建築士過去問題演習-3 ⑨ 鉄筋コンクリート構造⑨ 5)二級建築士過去問題演習-4 ⑩ 鋼構造① 1)S概論-1 ⑪ 鋼構造② 2)引張材と圧縮材の設計-1 鋼構造③ ⑫ 2)引張材と圧縮材の設計-2 3)小梁の設計-1 ⑬ 鉄筋コンクリート構造⑩ 6)総復習 ⑭ ⑮	① 鋼構造④ 3)小梁の設計-2 ② 鋼構造⑤ 3)小梁の設計-3 4)各部材設計の概要 ③ 鋼構造⑥ 5)二級建築士過去問題演習-1 ④ 鋼構造⑦ 5)二級建築士過去問題演習-2 ⑤ 鋼構造⑧ 5)二級建築士過去問題演習-3 ⑥ 鋼構造⑨ 5)二級建築士過去問題演習-4 ⑦ 構造計画と荷重① 1)構造計画概論 構造計画と荷重② 2)荷重概論 3)地震力と保有水平耐力 ⑧ 構造計画と荷重③ 4)二級建築士過去問題演習-1 ⑨ 構造計画と荷重④ 4)二級建築士過去問題演習-2 ⑩ 構造計画と荷重⑤ 4)二級建築士過去問題演習-3 ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数による評価 (評価対象は定期試験結果100%とする)
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築構造設計概論(実教出版)	演習問題(講師オリジナル) 二級建築士過去問題	

その他	二級建築士試験の学科Ⅲのうち、鉄筋コンクリートと鉄骨造に関しては8割以上の正解率を目指す
-----	--

教科名 **建築設備**

	前期	後期	総単位 2
単位数	1	1	

開講学科 **建築設計デザイン科2年**

担当教員 **夏川 勇**

実務経験: **一般教員**

目的	近年、建物の利便性を決定づける設備は、益々重要になっています。そのため、設備の知識は建築技術者に欠かせないものです。本講座は、実務に必要な基礎知識習得と、建築士合格に必要な知識習得を目標とします。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 給排水・衛生設備の概要 水圧と単位、上水、中水	① 伝熱現象、暖房設備の分類 各種暖房の種類と特徴
	② 給水方式の種類と特徴 給水計算 I	② 壁体の伝熱と熱貫流率 損失熱量の計算
	③ 給水計算 II 配管と水栓・弁	③ 暖房時の室内熱負荷算定 蒸気暖房と温水暖房
	④ キャピテーション、水撃作用 受水槽と高置水槽	④ 放射暖房と温風暖房 放熱器
	⑤ 屋内配管方式、吐水口空間 給湯設備	⑤ 空気線図の理解と利用方法
	⑥ 排水の種類、排水管と排水升 間接排水	⑥ 冷房時の室内熱負荷算定 乾球温度と湿球温度
	⑦ トラップの種類と破封現象 排水の放流方式	⑦ 室内環境基準、空気調和設備 空調方式 I (基本方式)
	⑧ 通気管と通気方式 衛生器具への給水方式	⑧ 空調方式 II (最新・特殊・省エネ方式) ヒートポンプ
	⑨ 衛生器具、合併浄化槽 ガス設備	⑨ 冷凍機 冷却塔
	⑩ 燃焼と消火の原理 消火設備と警報設備(消防法)	⑩ 加湿器、ダクト 換気設備
	⑪ 避難設備と消火活動上必要な施設(消防法)、建築基準法の避難・消火設備	⑪ 省エネルギーと環境保全
	⑫ 屋内消火栓設備 スプリンクラー設備 I	⑫
	⑬ スプリンクラー設備 II 特殊消火設備	⑬
⑭ 避雷設備	⑭	

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点評価
------	----------------------

教科書 教材	教科書 建築環境・設備(学芸出版社)	教材 オリジナルプリント	備考

その他	2級建築士
-----	-------

syllabus

教科名 **建築士講座 計画**

	前期	後期	総単位
単位数	-	0.5	0.5

開講学科 **建築設計デザイン科 2年**

担当教員 **戸巻 美樹**

実務経験: **一般教員**

目的	2級建築士学科試験の学科 I 計画問題の概要と出題傾向を知る。今まで学習してきた建築計画・建築史・環境工学・建築設備の内容を再確認しつつ、実務で必要となる知識を意識して、理解する。 (後期の中間試験まで)
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	①	① 環境① 気候・空気、熱、光
②	② 環境② 音、色彩、環境全般	
③	③ 設備① 空気調和設備、給水設備、排水・衛生設備	
④	④ 設備② 電気設備、照明設備、消火・防災設備、省エネルギー、設備全般	
⑤	⑤ 計画① 住宅建築、商業建築、公共建築	
⑥	⑥ 計画② 各種建築、建築生産、都市計画、計画各論、建築史	
⑦	⑦	
⑧	⑧	
⑨	⑨	
⑩	⑩	
⑪	⑪	
⑫	⑫	
⑬	⑬	
⑭	⑭	
⑮	⑮	

評価方法	中間試験による100点満点評価
------	-----------------

教科書	教材	備考
教科書 教材	2級建築士試験学科 ポイント整理と確認問題 (総合資格学院)	

その他	
-----	--

syllabus

教科名 建築士講座 構造

	前期	後期
単位数	-	0.5

総単位
0.5

開講学科 建築設計デザイン科 2年

担当教員 秋谷 智史

実務経験: 一般教員

目的	2級建築士学科試験の「構造」について、過去問分析による傾向と合格に必要なポイントをおさえた学習方法を教える。短期間の中で、特に力学の計算問題について、基礎的事項の整理とともに問題が解ける理解力がつくようになることを目的とする。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	①	① 試験概要説明
②	② カ・モーメント	
③	③ カのつり合い	
④	④ 静定梁の反力・応力	
⑤	⑤ 静定ラーメンの反力・応力	
⑥	⑥ 断面二次モーメント	
⑦	⑦ 演習問題	
⑧	⑧	
⑨	⑨	
⑩	⑩	
⑪	⑪	
⑫	⑫	
⑬	⑬	
⑭	⑭	
⑮	⑮	

評価方法	期末試験の100点満点による評価
------	------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築構造設計概論(実教出版)	オリジナルプリント	

その他	2級建築士試験
-----	---------

syllabus

教科名 建築士講座 法規

	前期	後期	総単位
単位数	-	0.5	0.5

開講学科 建築設計デザイン科2年

担当教員 山本 崇仁

実務経験: 確認申請の審査

目的	2級建築士試験対策の一環として、建築法規 I・II で学んだ内容を試験問題の演習形式で復習する。
----	--

実務経験の生かし方	受験に際して特に重要なポイントを抽出し、実務経験をもとに実態に即した具体的で詳細な解説を行うことで、法律に対する理解を深める。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	①	① 単体規定 ・用語の定義
②	②	② 一般構造 ・構造強度
③	③	③ 防火と内装制限 ・避難規定
④	④	④ 集団規定 ・道路と敷地
⑤	⑤	⑤ 用途地域 ・建ぺい率・容積率
⑥	⑥	⑥ 高さ制限 ・防火地域
⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨
⑩	⑩	⑩
⑪	⑪	⑪
⑫	⑫	⑫
⑬	⑬	⑬
⑭	⑭	⑭
⑮	⑮	⑮

評価方法	中間試験による100点満点で評価する。
------	---------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	基本建築関係法令集	オリジナルプリント	

その他	
-----	--

教科名 **建築士講座 施工**

	前期	後期
単位数	-	0.5

総単位
0.5

開講学科 **建築設計デザイン科 2年**

担当教員 **山本 崇仁**

実務経験 **建築設計・施工**

目的	卒業後に受験する二級建築士の学科試験の対策として、知識習得及び建築施工全般の復習を目的とする。過去の問題を種目別に分類し、傾向をつかみながら、問題の解答・解説を行う。
----	---

実務経験の活かし方	現場施工管理の経験を活かして建築の仕事を伝えます。 更に資格優先の業界であり「建築士の早期取得の必要性」を伝えたい。 現場施工管理業務の厳しさの中にも建物が出来上がった際の喜び・感動等をエピソードを交えて伝えます。
-----------	---

授業概要	前期	後期
		① 第1講 契約・仕様書・申請・届・監理業務 第3講 安全管理・材料管理
		② 第2講 施工計画・工程管理 ネットワーク工程 第4講 仮設工事・地盤・杭・土工事
		③ 第5講 鉄筋工事、型枠工事 第6講 コンクリート工事
		④ 第7講 鉄骨工事・補強コンクリートブロック工事 第8講 木工事・防水工事 第9講 左官工事、タイル・石工事
		⑤ 第10講 塗装工事・建具・ガラス工事 第11講 内装・断熱工事・設備工事 第12講 各種工事・工法・施工機械
		⑥ 第13講 積算・測量 全体まとめ・自習

評価方法	①中間試験・期末試験による100点満点の平均点数 (必要に応じて授業成績を最大▲5点を加味する)
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	・イラストでわかる二級建築士用語集 (学芸出版社)	講師オリジナルプリント	
	・やさしい建築施工 (学芸出版社)		

その他	
-----	--

syllabus

教科名 建築士講座 設計製図

	前期	後期
単位数	-	1

総単位
1

開講学科 建築設計デザイン科2年

担当教員 畠山 真直

実務経験: 確認申請の審査

目的	過去の2級建築士の製図の問題を教材として利用し、基礎的な作図方法、取り組方の習得を目的とし、製図試験に必要な知識と理解を深め、2級建築士製図試験の合格の礎となるように課題を進めることを目指す。
----	--

実務経験の生かし方	実際の設計図を利用して実務と製図試験の違いについて教えます。また実務で製作した模型を活用して立体的に空間を認識できるように教えます。設計事務所の実務についてエピソード踏まえ話しながら設計製図の基本を教えます。
-----------	--

授業概要		後期
		① 1) 製図試験の概要説明 2) 課題1 木造住宅練習問題: 平面図
		② 課題1 木造住宅練習問題: 平面図
		③ 課題1 木造住宅練習問題: 平面図
		④ 課題1 木造住宅練習問題: 立面図
		⑤ 課題1 木造住宅練習問題: 断面図
		⑥ 課題1 木造住宅練習問題: 伏図
		⑦ 課題1 木造住宅練習問題: 面積表、詳細図
		⑧ 課題2 RC住宅練習問題: 平面図
		⑨ 課題2 RC住宅練習問題: 平面図
		⑩ 課題2 RC住宅練習問題: 立面図
		⑪ 課題2 RC住宅練習問題: 断面図
		⑫ 課題2 RC住宅練習問題: 面積表、詳細図
		⑬
		⑭
	⑮	

評価方法	提出課題による100点満点の平均点数 課題提出90% 出欠席10%、計100%での評価
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築士講座 設計製図	実践課題NO1 実践課題NO3	

その他	
-----	--

syllabus

教科名 建築積算A

	前期	後期
単位数	-	1

総単位
1

開講学科 建築設計デザイン科 2年

担当教員 畠山 真直

実務経験: 建築設計

目的	建築積算の基本ともいえる設計図書から建築物の数量を計測・計算する方法を教え、実務の事例を踏まえ、建築の生産活動をコスト面からマネジメント(管理)するという基本的な考え方を理解することを目的とします。また、建築積算士補の資格取得を目的とします。
----	---

実務経験の生かし方	建築設計の実務経験を基に、設計図書や内訳書の見方、数量の計測・計算方法などを学び理解してもらう。
-----------	--

	前期	後期
授業概要	①	① 建築積算とは (建築生産活動と積算)
	②	② 建築生産プロセスの概要と建築積算①
	③	③ 入札とは (入札の種類 工事の発注・契約方式 数量公開)
	④	④ 積算業務の概要 (積算業務の流れ)
	⑤	⑤ 設計図書とは (設計図書の構成と種類)
	⑥	⑥ 工事費の構成 (工事費とは何か)
	⑦	⑦ 建築コストにおける数量と単価
	⑧	⑧ 内訳書とは
	⑨	⑨ 建築数量積算基準
	⑩	⑩ 数量の計測・計算(仕上) (仕上の数量計算の仕方)例題演習
	⑪	⑪
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点評価 後期期末試験は、建築積算士補の資格試験兼用とする
------	--

教科書 教材	教科書 建築積算 (日本建築積算協会)	教材 建築積算(別冊)	備考
-----------	---------------------------	----------------	----

その他	
-----	--

教科名 照明デザイン

	前期	後期
単位数	-	1

総単位	1
-----	---

開講学科 建築設計デザイン科2年

担当教員 矢野 倫大

実務経験: 一般教員

目的	最近の照明器具の多様化に伴い、自由度の高い照明デザインが可能になっている。インテリアや建築物が照明で大きく変わる。電気や照明の基礎的な説明から、照明の楽しさと重要性について、ほとんど基礎知識のない初心者でも十分に理解できるように説明する。特に照明デザインの重要性が一層高まるなかで、快適環境を形成する照明デザインについて、最新の情報もふまえて理解させる。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
①		① 建築電気設備の概要 照明デザインガイダンス 電気の一般知識
②		② 電気の基礎 電子と電流、オームの法則 直列接続と並列接続、合成抵抗
③		③ 電力と電力量 電流の発熱作用、電力量と熱量の関係 直流と交流、
④		④ 住宅の配線図 電灯配線図の見方、配線図用図記号
⑤		⑤ 照明環境1 照明の基本 良いあかりの条件光に関する基本量
⑥		⑥ 照明環境2 照明の基本 照明デザインについて
⑦		⑦ 光に関する基本量1 光と温度放射
⑧		⑧ 光に関する基本量2 照明の基準、照度計算
⑨		⑨ 照明器具 蛍光灯、LED照明、ソーラー パネル
⑩		⑩ 光源と環境 照明の手法、照明計画のプロセス
⑪		⑪ 屋内照明 住宅照明システムと制御システム
⑫		⑫
⑬		⑬
⑭		⑭

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数
------	-------------------------

教科書教材	教科書	教材	備考
		関連内容テキスト 関連内容の演習プリント	

その他	
-----	--

syllabus

教科名 インテリアコーディネーション I

	前期	後期
単位数	-	1

総単位
1

開講学科 建築設計デザイン科1年

担当教員 大脇 久美

実務経験: 一般教員

目的	来年度のインテリアコーディネーター資格試験の合格を目指す為の基礎力をつける。今年度は、テキスト(インテリアコーディネーターハンドブック)の上下巻を中心に学ぶ。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要		後期
		① 第1章 インテリアコーディネーターの誕生とその背景
		② 第2章 インテリアコーディネーターの仕事
		③ 第3章 インテリアの歴史(日本)
		④ 第3章 インテリアの歴史(西洋)
		⑤ 第4章 インテリアコーディネーションの計画 第1節 検討事項 その1
		⑥ 第4章 インテリアコーディネーションの計画 第1節 検討事項 その2
		⑦ 第4章 インテリアコーディネーションの計画 第2節 生活場面の構成手法
		⑧ 第4章 インテリアコーディネーションの計画 第3節 リフォームの計画
		⑨ 第5章 インテリアエレメント・関連エレメント 第1節 インテリアエレメント 第2節 住宅用家具
		⑩ 第5章 インテリアエレメント・関連エレメント 第3節 造作部品 第4節 ウインドトリートメント
		⑪ 第5章 インテリアエレメント・関連エレメント 第5節 カーペット 第6節 アート
	⑫ 第5章 インテリアエレメント・関連エレメント 第7節 エレメント 第8節 商品情報	

評価方法	中間試験、期末試験による100点満点評価
------	----------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	インテリアコーディネーターハンドブック 統合版上巻 インテリア産業協会		

その他	インテリアコーディネーター資格試験(公益社団法人インテリア産業協会主催)
-----	--------------------------------------

syllabus

教科名 **住環境デザイン**

	前期	後期
単位数	1	-

総単位
1

開講学科 **建築設計デザイン科 2年
(住宅デザインコース)**

担当教員 **戸巻 美樹**

実務経験: **建築設計**

目的	バリアフリー設計の考え方を、法令や福祉のまちづくりの政策から教え、実務での事例を挙げながら、バリアフリー設計の仕様やスケールをプランニング通して習得する。また、ユニバーサルデザインの考え方を理解し、建築や身の回りの物への応用を考える。
----	---

実務経験の生かし方	建築設計において、どのようなバリアフリー設計が求められるかを実務経験の例を挙げて解説し、事例をもとに公共建築のバリアフリー設計と住宅のバリアフリーの設計考え方を説明する。
-----------	---

授業概要	前期 高齢化社会に向けた住環境整備	後期
	①	①
	②	②
	③	③
	④	④
	⑤	⑤
	⑥	⑥
	⑦	⑦
	⑧	⑧
	⑨	⑨
	⑩	⑩
	⑪	⑪
	⑫	⑫
	⑬	⑬
⑭	⑭	

評価方法	レポート・演習図面提出による100点満点評価
------	------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	図解 高齢者・身体障害者を考えた建築設計(井上書院)		

その他	
-----	--

syllabus

教科名 カラーコーディネーション

	前期	後期
単位数	-	1

総単位
1

開講学科 建築設計デザイン科2年

(住宅デザインコース)

担当教員 大脇 久美

実務経験: 一般教員

目的	色に関する基礎知識を取得する。色の性質・特性の心理的効果を理解し、商品やデザインで色のより、的確な、効果的な色の選択ができる実力をつける。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	後期 生活と色の効果	
	① 色の基礎事項・色と光	
	② 色の分類・3属性・色立体	
	③ 色の表示方法・JIS物体色の色名	
	④ PCCS・マンセル表色系	
	⑤ 配色の基礎知識・配色の活用	
	⑥ 色と光の関係・自然現象の色と商品への応用	
	⑦ 照明器具と光の特性 照明と商品ディスプレイの事例	
	⑧ 色の見えを左右する基本事項	
	⑨ 眼の役割・水晶体・瞳孔・視細胞・脳	
	⑩ 製品開発における色の役割	
	⑪ カラーコーディネーター模擬試験(1)	
⑫ カラーコーディネーター模擬試験(2)		

評価方法	中間試験、期末試験による100点満点評価
------	----------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	カラーコーディネーター		
	アドバンスクラス		
	テキスト&問題集		
	ナツメ社		

その他	
-----	--

syllabus

教科名 寒地建築概論

	前期	後期
単位数	-	1

総単位
1

開講学科 建築設計デザイン科2年
(住宅デザインコース)

担当教員 畠山 真直

実務経験: 建築設計

目的	建築は土地に密着しており、その気候と風土により生活スタイルや建築物の造り方に地域性が出る。特に北海道をはじめとする積雪寒冷地における建築の計画においては、気候・風土をよく理解し置く必要がある。本科目では北海道の建築の在り方について学習していく。
----	--

実務経験の生かし方	北海道内での建築設計経験を活かし、積雪寒冷地での建築設計のポイントなどを講義内で紹介する。
-----------	---

授業概要	後期	
	① 第1章 風土と生活 1 北海道の風土と建築	⑧ 第3章 技術と生活 3 開口部の技術 4 換気の技術
	② 第1章 風土と生活 2 北方圏の風土と生活	⑨ 第3章 技術と生活 5 結露防止の技術 6 省エネルギーの技術 7 雪対策の技術
	③ 第2章 環境と生活 1 夏対応と冬対応 2 採暖と暖房	⑩ 第4章 建築と生活 1 雪国の住様式 2 雪と親しむ暮らし
	④ 第2章 環境と生活 3 防暑と涼房 4 空間の内と外	⑪ 第4章 建築と生活 3 町並みと暮らし 4 積雪寒冷地のノーマライゼーション
	⑤ 第2章 環境と生活 5 自然エネルギー利用 6 自然の利用と発見	⑫ 第5章 地域空間と生活 1 克雪と新雪 2 専有と共有
	⑥ 第3章 技術と生活 1 断熱の技術 2 気密化の技術	⑬ 第5章 地域空間と生活 3 純化と複合 4 日常と非日常
⑦ 中間試験の傾向と対策		

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点
------	------------------------

教科書 教材	教科書 雪と寒さと生活 I 発想編 (日本建築学会編)	教材	備考

その他	
-----	--

syllabus

教科名 建築製図演習 I (前期)

	前期	後期
単位数	2	-

総単位
2

開講学科 建築設計デザイン科 1年

担当教員 銚館 亮治・畠山 真直

実務経験: 建築設計

目的	前期:木造住宅建築図、後期:RC造集合住宅建築図の教材を使用し、建築図面の見方の習得、製図の基本の習得を目的とし、更に各種構造物の内容を理解を目指す。
----	---

実務経験の生かし方	建築士経験を踏まえて、作図の技術等を伝えます。 今はCADの作図が主流ですが、手書き図面の良さや難しさ、表現方法を理解していただきたいと考えます。 また、製図は2級建築士取得に必要な技術なので、わかりやすく説明します。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	① ドラフター・平行定規の使い方、線の種類とその使い方、レイアウトと線の練習 ② 建築図面の描き方の説明、木造住宅の製図:1階平面図・配置図 ③ 木造住宅の製図:1階平面図・配置図 ④ 木造住宅の製図:2階平面図 ⑤ 木造住宅の製図:2階平面図 ⑥ 木造住宅の製図:立面図・断面図 ⑦ 木造住宅の製図:立面図・断面図 ⑧ 木造住宅の製図:立面図・断面図 ⑨ 木造住宅の製図:矩計図 ⑩ 木造住宅の製図:矩計図 ⑪ 木造住宅の製図:矩計図 ⑫ 木造住宅の製図:矩計図 ※図面はケント紙(A3)に鉛筆書きとする	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫

評価方法	課題図の100点満点評価
------	--------------

教科書教材	教科書	教材	備考
	初めての建築製図 (学芸出版社)		

その他	
-----	--

syllabus

教科名 建築製図演習 I (後期)

	前期	後期
単位数	-	2

総単位	2
-----	---

開講学科 建築設計デザイン科1年

担当教員 銚館 亮治・畠山 真直

実務経験: 建築設計

目的	鉄筋コンクリート構造の建築製図について、基本的な実務知識と技術を習得することを目指す。鉄骨構造の設計図を正しく読み、製図する能力と作図に取り組む姿勢を身につけることを目指す。
----	---

実務経験の生かし方	実務経験より、図面に描いている内容を正しく読み取ることができるように、常に今建築物のどの部分を描いているのかを個々に説明しながら授業をすすめていく。
-----------	--

	前期	後期
授業概要	① _____	① 授業の進め方、課題説明
	② _____	② 課題1 平面詳細図の製図
	③ _____	③ 平面図の表現の仕方
	④ _____	④ 課題2 断面詳細図の製図
	⑤ _____	⑤ 断面図の表現の仕方
	⑥ _____	⑥ 課題3 展開図の製図
	⑦ _____	⑦ 展開図の表現の仕方
	⑧ _____	⑧ 最終評価、講評
	⑨ _____	⑨ _____
	⑩ _____	⑩ _____
	⑪ _____	⑪ _____
	⑫ _____	⑫ _____
	⑬ _____	⑬ _____
	⑭ _____	⑭ _____

評価方法	製図のプロセス・提出期限・最終成果図面を総合的に評価する。50点以上を合格とする。
------	---

	教科書	教材	備考
教科書 教材	初めての建築製図 (学芸出版社)		

その他	
-----	--

教科名 **建築製図演習Ⅱ**

	前期	後期	総単位 2
単位数	2	-	

開講学科 **建築設計デザイン科 2年**

担当教員 **大脇 久美**

実務経験: **建築設計**

目的	鉄骨構造の建築製図について、基本的な実務知識と技術を習得することを目指す。鉄骨構造の設計図を正しく読み、製図する能力と取り組む姿勢を身につけることを目指す。
----	--

実務経験の生かし方	設計図の書き方を、実際に関わった工事について説明し、図面の書き方についての理解を深めるための教材として活用する。また、各部の詳細図の書き方や表現の仕方などを、スケッチや部分詳細図で説明し、どの図面のどこを参照すれば分かるかを説明する。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	① 授業の進め方、課題説明	①
② 鉄骨構造の図面の見方	②	
③ 課題1 平面詳細要素の製図	③	
④ 課題2 平面詳細図の製図	④	
⑤ 平面図の基本的書き方	⑤	
⑥ 部分詳細の説明	⑥	
⑦ 図面の表現の仕方	⑦	
⑧ 課題3 矩計図の製図	⑧	
⑨ 矩計図の書き方	⑨	
⑩ 部分詳細の説明	⑩	
⑪ 最終評価・講評	⑪	
⑫	⑫	
⑬	⑬	
⑭	⑭	
⑮	⑮	

評価方法	製図のプロセス・提出期限・最終成果図面を総合的に評価する。50点以上を合格とする。
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	青山建築デザイン・医療事務専門学校2号館設計図		

その他	
-----	--

syllabus

教科名 建築CAD演習

	前期	後期
単位数	2	2

総単位
4

開講学科 建築設計デザイン科1年

担当教員 矢野 倫大・大脇 久美

実務経験: 一般教員

目的	前期ではJwcadの基本操作に理解と基本図形等の作成を行いながら、CAD操作技術を理解する。後期は前期の操作方法を踏まえてCAD検定3級レベルの「部分詳細図」、「通り芯」を理解し、さらに「立面図」作成等の建築図面を速く、正確に作図する技術を習得する
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
①	Jw-cad基本操作① 直線の書き方 ファイル保存方法他	① Jw-cad応用編 部分詳細図①
②	Jw-cad基本操作② 四角形の書き方 文字の書き方 [戻る]と[進む]他	② Jw-cad応用編 部分詳細図②
③	Jw-cad基本操作③ 図形の選択 図形の複写と移動他	③ Jw-cad応用編 部分詳細図③
④	Jw-cad基本操作④ 2線 中心線 包絡処理他	④ Jw-cad応用編 通り芯図①
⑤	Jw-cad基本操作⑤ 面取り ハッチング他	⑤ 建築CAD検定3級対策 課題①
⑥	Jw-cad基本操作⑥ レイヤ 属性変更 パラメトリック変形他	⑥ 建築CAD検定3級対策 課題②
⑦	Jw-cad基本操作⑦ 文字の編集 寸法線 レイヤグループ他	⑦ 建築CAD検定3級対策 課題③
⑧	Jw-cad基本操作⑧ 輪郭線 表題の書き方他	⑧ 建築CAD検定3級対策 課題④
⑨	建築CAD作図演習1(平面図)	⑨ 建築CAD検定3級対策 課題⑤
⑩	建築CAD作図演習2(1階・2階平面図)	⑩ 建築CAD検定2級対策 課題①
⑪	建築CAD作図演習3(1階・2階平面図)	⑪ 建築CAD検定2級対策 課題②
⑫		⑫

評価方法	中間試験はJw-cadの基本操作を踏まえた作図試験により100点満点評価とする。期末試験は行わずに、課題による評価(1階・2階平面図)と日常の授業中における平常点により評価する(+5点/-10点)。
------	---

教科書教材	教科書	教材	備考
	なし	・オリジナルプリント	

その他	建築CAD検定3級の資格取得を目指す。
-----	---------------------

syllabus

教科名 コンピュータプレゼンテーション(前期)

	前期	後期
単位数	2	-

総単位	2
-----	---

開講学科 建築設計デザイン科2年

担当教員 大脇 久美

実務経験: 一般教員

目的	建築設計におけるプレゼンテーションツールとして3Dモデル作成技術を教える。特に後半では課題を中心に授業を進め、設計図をもとにした正確なモデリングや応用技術を習得させる。実務経験上のプレゼンテーション方法や表現について事例をあげ、他者へのプレゼンテーションをはじめ、設計補助のツールとしても実践的に用いることができるようになることを目標とする。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① SketchUPの概要と基本操作①: モデリングツールの操作、マテリアルの設定等	①
② 課題①小規模建築物の外観モデリング	②	
③ SketchUPの基本操作②: 図形の移動・複製・回転、正多角形の作成等	③	
④ 課題②: 休憩所のモデリング	④	
⑤ SketchUPの基本操作③: 長さの計測、補助線の作成、角度指定モデリング等	⑤	
⑥ 課題③: 切妻住宅の外観モデリング	⑥	
⑦ SketchUPの基本操作④: 視点の切り替え、レイヤ、モデルの断面表示の方法	⑦	
⑧ 課題④: 店舗付き事務所ビルのモデリング(外観)	⑧	
⑨ 課題④: 店舗付き事務所ビルのモデリング(内観)	⑨	
⑩ 課題⑤: 2階建て住宅のモデリング(外観)	⑩	
⑪ 課題⑤: 2階建て住宅のモデリング(外観)	⑪	
⑫ 課題⑤: 2階建て住宅のモデリング(内観)	⑫	
⑬ 課題⑤: 2階建て住宅のモデリング(内観)	⑬	
⑭	⑭	
⑮	⑮	

評価方法	各提出課題による100点満点の平均点数
------	---------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
		オリジナルプリント	

その他	
-----	--

syllabus

教科名 コンピュータプレゼンテーション(後期)

	前期	後期	総単位
単位数	-	2	2

開講学科 建築設計デザイン科2年

担当教員 余湖 祥博

実務経験: 一般教員

目的	アプリケーションソフトはAutoCAD用い 製図目的に応じた用紙設定ができ、作図コマンド・編集コマンド等の特徴を理解し図面作成のためのの基本を学ぶ。 また、CAD検定試験3級・2級受験の基礎知識を養う。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	①	① CADの特徴・目的の理解 基本操作とCAD感覚を養う
②	② 製図と用紙サイズ 起動・保存・終了 スナップ機能の理解	
③	③ 座標入力・作図コマンドの活用法	
④	④ 円の作成・一時オブジェクトスナップの活用	
⑤	⑤ 円弧・多角形コマンドの理解	
⑥	⑥ 文字・寸法入力 I 方法	
⑦	⑦ 文字・寸法入力 II 各種編集方法	
⑧	⑧ 図形操作コマンド 移動・コピー・回転・尺度変更の活用	
⑨	⑨ 図形修正コマンド トリム・オフセットの活用法と練習問題	
⑩	⑩ オブジェクトの結合 配列複写の活用法と練習問題	
⑪	⑪ 3級検定問題向け対策 2重線の使い方	
⑫	⑫ 課題作図 II コマンド復習・作図の高率化	
⑬	⑬ 登録・印刷と設定法・まとめ	
⑭	⑭	
⑮	⑮	

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数 小課題の提出
------	-----------------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	初めて学ぶAutoCAD2024 作図・操作ガイド (ソーテック社)		

その他	目標: 建築CAD検定試験3級受験 基礎知識
-----	------------------------

syllabus

教科名 建築計画演習(前期)

	前期	後期
単位数	3	-

総単位	3
-----	---

開講学科 建築設計デザイン科1年

担当教員 大脇 久美

実務経験: 建築設計

目的	建築物の設計において、建築計画案を施主に確認していただく方法として「設計図」と「模型」がある。木造2階建の住宅計画を通して、図面(設計図書)の作図基本と模型(1/100)による表現方法を学び計画案を作成する上での基本を理解してもらう。
----	---

実務経験の生かし方	これまで設計・施工に関わってきて施主の要望事項を確認する方法として、設計図書と建築模型での確認、類似建物での確認を行ってきた。施主の希望通りの建物を表現するためには文書のみではなく図面等が必要となる。個人住宅の計画を通して、作成のポイントを示しながら、設計について理解してもらう。
-----------	--

授業概要	前期	
	1) 課題の説明	16) 模型作成 建物パーツ作成
	2) ブロックプランの進め方	17) 模型作成 建物パーツ作成
	3) 設計資料によりブロックプランの検討	18) 模型作成 建物組立
	4) ブロックプラン作成とチェック	19) 外構作成
	5) ブロックプラン仕上げ	20) 模型仕上げ
	6) ブロックプランの完成・ブロックプラン評価	21) 図面と模型の完成提出による評価
	7) エスキス作成1	
	8) エスキス作成2	
	9) エスキス作成とチェック	
	10) エスキス仕上げ	
	11) エスキス完成・エスキス評価	
	12) 1階平面図・配置図の作成	
	13) 2階平面図の作成	
	14) 平面図仕上げ・ラベルシート作成	
15) 図面完成・図面による評価		

評価方法	中間採点はブロックプランとエスキスにて評価、期末採点は図面と模型による評価で行う(各100点満点平均)。平常点(授業態度、取組姿勢)により、減点評価する。
------	---

教科書 教科書 教材	教科書	教材	備考
	・初学者の建築講座「住宅の設計」(市ヶ谷出版社) ・見てすぐつくれる建築模型の本(彰国社)	・オリジナルプリント	

その他	
-----	--

syllabus

教科名 **建築計画演習(後期)**

	前期	後期
単位数	-	3

総単位	3
-----	---

開講学科 **建築設計デザイン科1年**

担当教員 **早川陽子**

実務経験: **建築設計監理**

目的	課題「自動車ショールーム」の設計 車の展示販売販売のみならず、街の交流や情報の発信拠点として誰にとっても魅力あるショールームを計画、設計する。更に周辺環境との調和にも配慮し地域住民の為の快適や賑わいを演出する。建物の基本的要求の理解と自由な発想を学ぶ。
----	---

実務経験の生かし方	建築士として実際に設計した建物について取り組み方を紹介する。特に基本設計では建築法規、建築計画の重要性を伝え、自ら調べ創り上げてゆく過程の大切さを指導する。設計においては基本から応用の選択を実際の図面、写真を紹介することで学生の可能性を引き出す。
-----------	---

授業概要	前期	後期
	①	① 課題の説明 所要室の役割と法規のチェック
②	② ブロックプラン提出 エスキス開始 (配置兼平面図)	
③	③ エスキス(配置兼平面図) 平面計画、外構計画	
④	④ エスキス(配置兼平面図) 平面計画 構造計画 各部の設計	
⑤	⑤ エスキス(配置兼平面図)の提出 (中間採点)	
⑥	⑥ エスキス(総合) 平面図の整理、断面、立面の検討	
⑦	⑦ エスキス総合 配置図兼平面図、断面図、立面図	
⑧	⑧ エスキス総合 配置図兼平面図、断面図、立面図	
⑨	⑨ エスキス～製図 全体を調整して製図に進む	
⑩	⑩ 製図・パース・模型、設計趣旨 全体のバランス指導	
⑪	⑪ 製図・パース・模型、設計趣旨 全体のバランス指導、設計趣旨	
⑫	⑫ 製図・パース・模型の提出 (期末採点)	
⑬	⑬	
⑭	⑭	
⑮	⑮	

評価方法	中間試験: エスキス100点満点評価 期末試験: 図面・模型の100点満点評価
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
		商業施設Ⅱ(市ヶ谷出版社) 建築基準法法規 建築資料集成 新建築	

その他	
-----	--

syllabus

教科名 インテリアデザイン設計・住宅デザイン設計

	前期	後期
単位数	2	-

総単位	2
-----	---

開講学科 建築設計デザイン科 2年
インテリアコース・住宅デザインコース

担当教員 戸巻 美樹

実務経験: 建築設計

目的	課題(集合住宅)を通して建築設計の基礎知識、設計の思考方法や表現技術などを学習して基本設計をまとめあげ成果品として図面・模型の提出をさせる。特に、実務経験上の設計事例をあげ、建築設計の役割と責任を理解させる。図面作成においては、使える表現技術の基礎を教え、模型制作では制作技術の全体的な底上げが出来るように指導していく。
----	--

実務経験の生かし方	実際に関わった設計について、複数の計画案の設計図書をプリントで紹介し、設計業務の理解を深めるための教材として活用する。 更に、設計の前段にある設計計画の進め方や事前の調査、関係官庁への申請・届出についての内容を実務経験に基づいたエピソードを交えながら説明する。
-----------	---

	前期	後期
授業概要	① 設計課題の内容・日程説明 ブロックプランの内容説明・指導	①
	② ブロックプランの指導	②
	③ ブロックプランの指導・提出	③
	④ ブロックプランの返却(修正済) エスキスの開始(エスキスの内容説明他)	④
	⑤ エスキスの指導(配置図・平面図)	⑤
	⑥ エスキスの指導(立面図・断面図)	⑥
	⑦ エスキスの指導・提出	⑦
	⑧ エスキスの返却(修正済) 成果品の内容説明・図面作成開始	⑧
	⑨ 図面下書き・建築パースの指導	⑨
	⑩ 図面スミ入れ・着彩指導	⑩
	⑪ 図面着彩指導 模型制作・指導	⑪
	⑫ 図面着彩指導 模型制作・指導	⑫
	⑬ 模型制作・指導 成果品(図面・模型)の提出	⑬

評価方法	中間採点・期末採点による100点満点の平均点 中間採点はブロックプラン30%・エスキス70%の計100%での評価 ブロックプラン・エスキスの採点は各提出期限10%・内容40%・表現力40%・日常10%、計100%での評価 期末採点は成果品の図面50%・模型50%の計100%での評価 図面・模型の採点は各提出期限20%・表現力70%・日常10%、計100%での評価
------	--

	教科書	教材	備考
教科書 教材		建築設計資料001 低層集合住宅 (建築思想研究所)	

その他	
-----	--

教科名 **卒業設計演習**

	前期	後期
単位数	-	4

総単位
4

開講学科 **建築設計デザイン科 2年
インテリアコース・デザインコース**

担当教員 **大脇 久美** 実務経験: **建築設計**

目 的	1年半の授業で得た建築知識を基にして、卒業課題の構想・決定、作図、模型製作を通して建築知識を深める。実務では重要な建築計画立案からプレゼンテーションまでの流れを教える。抽象的な着想から具現化することは建築を志す者にとって大切なことを理解させる。
-----	--

実務経験の生かし方	建築業界での設計経験を活かし、建築を計画して模型や図面等を作成することの大切さを実感してほしいと思います。
-----------	---

授業概要	後期	
	1) 全体の流れ 課題検討	16) 模型作成1(材料検討・スチレンボード切り)
	2) 課題(3種類)	17) 模型作成2(スチレンボード切り)
	3) 課題決定	18) 模型作成3(スチレンボード切り・仮組立て)
	4) エスキス作成1(下書き)	19) 模型作成4(スチレンボード組立て(壁))
	5) エスキス作成2(検討)	20) 模型作成5(スチレンボード組立て(屋根))
	6) 平面図作成1(決定)	21) 模型作成6(建物着色)
	7) 平面図作成2(下書き)	22) 模型作成7(建物装飾)
	8) 平面図作成3(仕上げ(墨入れ))	23) 模型作成8(道路・外構廻り制作)
	9) 平面図作成4(仕上げ(着色))	24) 模型作成9(道路・外構廻り制作)
	10) 平面図作成5(パース図)	25) 模型作成10(外構廻り(樹木他)制作)
	11) 立面図作成1(下書き)	26) 模型作成11(外構廻り(樹木他)制作)
	12) 立面図作成2(墨入れ・着色)	27) 模型作成12(外構廻り(樹木他)制作)
	13) 断面図作成1(下書き)	28) 模型作成13(レビュー)
	14) 断面図作成2(墨入れ・着色)	29) 模型作成14(修正)
15) 平面図・立面図(プラン図)提出	30) 模型提出	

評価方法	プラン図((CAD作成)平面図・立面図・パース図)提出で50点満点、模型提出で50点満点で評価する(各課題提出日時厳守のこと)。授業態度により減点あり。
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
		オリジナルプリント	

その他	二級建築士・一級建築士の資格取得を目指す。
-----	-----------------------

syllabus

教科名 プレゼンテーションテクニック

	前期	後期
単位数	1	1

総単位	2
-----	---

開講学科 建築設計デザイン科 1年

担当教員 大野 佳月

実務経験: 一般教員

目的	お客様に設計意図をより判りやすく説明する為のプレゼンテーションにおいて、図面の他に模型やパースが重要な役割をしめている。授業では模型やパースの基礎から設計課題(各自で設計)をより良く表現する為の方法を理解させる。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 授業の進め方 プレゼンテーションの必要性解説	① (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」作図説明
	② (模型)道具・材料説明 コーナーの製作	② (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」画面枠の作図
	③ (模型)「100角ビル」のモデリングの説明 図面の理解・スケール変更・壁の作成	③ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」窓の作図
	④ (模型) 図面の理解・スケール変更 壁・出入口の作成	④ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」ベット・机の作図
	⑤ (模型) 図面の理解・スケール変更 窓の説明・窓の作成	⑤ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」椅子の作図
	⑥ (模型) 図面の理解・スケール変更 調整・仕上げ	⑥ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」照明器具の作図
	⑦ (図面表現)印刷平面図に着色説明 テラスの自由デザイン説明	⑦ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」色鉛筆着色
	⑧ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法・立体感のある木の表現方法	⑧ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」色鉛筆着色 仕上げ
	⑨ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 芝生の表現方法	⑨ (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より作図説明
	⑩ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 室内床・家具の表現方法	⑩ (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より壁・窓の作図
	⑪ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 テラスの表現方法	⑪ (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より出入口の作図
	⑫ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 仕上げ	⑫ (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より歩道の書き方説明・作図・仕上げ
	⑬	⑬
	⑭	⑭
⑮	⑮	

評価方法	中間・期末の提出課題100点満点評価
------	--------------------

教科書 教材	教科書 見てすぐつくれる建築模型の本 (彰国社)	教材 100角キューブ建築:図面一式 1点透視図:図面一式 パース:透視図プリント	備考

その他	
-----	--

教科名 造形デザイン I

	前期	後期
単位数	2	2

総単位
4

開講学科 建築設計デザイン科 1年

担当教員 高木 順子

実務経験: 一般教員

目的	建築を計画、デザインするうえでの造形の基礎的な技法及び見方・考え方を教える。前期は作品を制作するプロセスを体験し、考える方法を理解するように指導する、より立体的に表現出来るようにする。後期は作品性の高いものを完成させ、以降の学生自身の制作に役立つように指導する。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期	後期
	① 1)授業内容及び用具の説明、2)建築デザインに対する考え方について、3)自分の造りたい建物についてのラフスケッチ、自分の中にある建物について考える、4)スケッチ完成	① 鉛筆デッサンーガラス瓶・アルミ缶 素材の形体及び質感を表現する
	②	② 平面構成ーマチエールの違いによる構成 質感の違いを表現する、√の長方形
	③ デザイン表現の基礎として、グラデーションを描く、ー鉛筆による明暗のグラデーション	③ 「マチエールの違いによる構成」 ケント紙で質感の違うパーツを製作
	④ 色彩によるグラデーションー彩度の変化を表現する	④ 「マチエールの違いによる構成」 造ったパーツを美しく構成する。
	⑤ 鉛筆デッサンー幾何形態 立体を理解し、正確に表現する	⑤ 北海道立近代美術館見学 美術館建築を体感し、美術作品を観る。
	⑥ 平面構成ー「四季」をデザインする 構成及び、色彩計画をたてる	⑥ 「建築の絵画的表現」モチーフとなる 建築の写真を選ぶ、下描トレース。
	⑦ 「四季をデザインする」それぞれの季節の 違いを色彩で表現する	⑦ 「建築の絵画的表現」それぞれの面の色彩 を単純化して表現する。
	⑧ 「四季をデザインする」ポスターカラーで 彩色、仕上げ	⑧ 「建築の絵画的表現」 彩色の続き、仕上げ
	⑨ 「植物の表現」1つのモチーフ(植物)を 異なる表現方法で描く(細密描写など)	⑨ 立体構成ー動きのある内部空間をデザイン する
	⑩ 「植物のデザイン」植物を観察して自分の デザインを考える	⑩ 立体構成ー制作・彩色 より動きを表現するためのグラデーションで行う
	⑪ 「パターンデザイン」デザイン化したモチ ーフをパターンデザインとして構成。	⑪ 立体構成、組み立て、仕上げ
	⑫ 「パターンデザイン」構成したデザイン画 に色彩の変化をつけて彩色。	⑫
	⑬ 「パターンデザイン」仕上げ	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	提出作品による評価(100点満点)
------	-------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	なし 必要に応じてプリントを配布する	スケッチブック2冊 絵の具セット 鉛筆・色鉛筆 他	

その他	
-----	--

教科名 造形デザインⅡ

	前期	後期
単位数	2	-

総単位
2

開講学科 建築設計デザイン科 2年
住宅デザインコース

担当教員 高木 順子

実務経験: 一般教員

目的	1学年時の建築を計画・デザインするうえでの基礎的な学習をふまえ、より複雑な表現を体験し、空間や動きをイメージできるように指導する。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

	前期	後期
授業概要	① 鉛筆デッサンー相貫体 形体の構成を理解して表現する	①
	② デザイン・平面構成<曲面の構成> 動きのある曲面をイメージして表現	②
	③ 平面構成、線を規則的に変化させることで新しい形体を生む	③
	④ 平面構成、前回の線による構成を面に変え、グラデーションで彩色	④
	⑤ 立体構成<線材による立体模型> 作品性のある立体を制作する	⑤
	⑥ 線材による立体模型を制作し 彩色により完成度を高める	⑥
	⑦ 立体構成の組み立て、台座も含めて全体の統一性をはかる	⑦
	⑧ ショールーム見学、家具等のショールームを見学し、実際に体感する	⑧
	⑨ 立体構成<角柱による構成> 全体的な方向から形体を考え構成	⑨
	⑩ 前回の構成作品を大きなモニュメントとして、描く、2点透視を理解する	⑩
	⑪ 立体構成(折りの形態) 「折り」による立体を学習する	⑪
	⑫ 前回の構成作品を実際の建築をイメージして描く	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	提出作品による評価(100点満点)
------	-------------------

教科書 教材	教科書 なし 必要に応じてプリントを配布する	教材 絵の具セット 鉛筆 スチレンボード パネル	備考
-----------	------------------------------	--------------------------------------	----

その他	
-----	--

教科名 建築BIM演習

	前期	後期	総単位
単位数	1	1	2

開講学科 建築学科2年、建築設計デザイン科2年

担当教員 銚館 亮治 実務経験: 一般教員

目的	BIMの概念を学び、2DCADとの違いを理解し、次世代ツールを体感する。建物作図演習を通して基本操作を習得し、モデリングする技術を身につける。パース作成・BIM-xデータによりモデル情報を視覚的に、インフォメーションする能力を身につけ、卒業設計に活かす。
----	---

実務経験の生かし方	
-----------	--

	前期	後期
授業概要	① ・ガイダンス(BIMの概念、Archicadの概要)Archicadの基本操作1(起動～	① 演習課題1Archicadによる立面図・断面図
	② ・Archicadの基本操作1・基本演習(～要素の入力・選択・移動・複写等)	② 卒業設計支援講義
	③ ・Archicadの基本操作2 ・演習課題1(1F:柱・梁・壁)モデリング	③
	④ ・演習課題1(1F:階段・スラブ・屋根・メッシュドア・窓オブジェクト・ゾーン)モデリング	④
	⑤ ・演習課題1(2Fモデリング)	⑤
	⑥ ・演習課題1(2Fモデリング)	⑥
	⑦ ・演習課題1(3Fモデリング)	⑦
	⑧ 材質変更 図面レイアウト・印刷	⑧
	⑨ ・演習課題1(仕上げ)	⑨
	⑩ ・演習課題1(仕上げ)	⑩

評価方法	定期試験は行わず、中間は基本演習と演習課題1(2Fまでの出来高)と期末は演習課題1(完成版)により、進捗度、正確性、講義に取り組む姿勢も加味する。中間・期末それぞれ100点満点の平均点で後期の評価とする。
------	--

教科書 教材	教科書 無し	教材 講師オリジナルプリント	備考
-----------	-----------	-------------------	----

その他	ソフトは、コンピューター室のArchicad(windows版)を使用する。
-----	--

教科名 自主研修活動(1年次)

	前期	後期	総単位 4
単位数	2	2	

開講学科 建築学科 1年
建築設計デザイン科 1年

担当教員 各担当教員 実務経験: 一般教員

目的	さまざまな資格取得と履修科目以外での教科の勉強をすることにより、深い知識と就職他に役立つ資格を取得することを目的としている。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期 ①建築CAD検定 ②設計コンペ ③福祉住環境コーディネーター講座 ④インテリアコーディネーター講座 ⑤宅地建物取引士講座 ⑥建築見学 ⑦二級建築施工管理技術者検定 ⑧カラーコーディネーター講座 ⑨公務員講座 ⑩自主学习 他 自分の興味ある講座を選び、知識を深める為や資格取得を目的として受講する。	後期 ①建築CAD検定 ②設計コンペ ③福祉住環境コーディネーター講座 ④インテリアコーディネーター講座 ⑤宅地建物取引士講座 ⑥建築見学 ⑦二級建築施工管理技術者検定 ⑧カラーコーディネーター講座 ⑨公務員講座 ⑩自主学习 他 自分の興味ある講座を選び、知識を深める為や資格取得を目的として受講する。
------	--	--

評価方法	出席を基本とし、受講する。
------	---------------

教科書 教材	教科書 専門のプリントを配布する。	教材	備考

その他	事前にどの講座を受けるのか、希望を取り、受講する。
-----	---------------------------

教科名 自主研修活動(2年次)

	前期	後期	総単位 4
単位数	2	2	

開講学科 建築学科 2年
建築設計デザイン科 2年

担当教員 各担当教員 実務経験: 一般教員

目的	さまざまな資格取得と履修科目以外での教科の勉強をすることにより、深い知識と就職他に役立つ資格を取得することを目的としている。
----	--

実務経験の生かし方	
-----------	--

授業概要	前期 ①建築CAD検定 ②設計コンペ ③福祉住環境コーディネーター講座 ④インテリアコーディネーター講座 ⑤宅地建物取引士講座 ⑥建築見学 ⑦二級建築施工管理技術者検定 ⑧カラーコーディネーター講座 ⑨公務員講座 ⑩自主学习 他 自分の興味ある講座を選び、知識を深める為や資格取得を目的として受講する。	後期 ①建築CAD検定 ②設計コンペ ③福祉住環境コーディネーター講座 ④インテリアコーディネーター講座 ⑤宅地建物取引士講座 ⑥建築見学 ⑦二級建築施工管理技術者検定 ⑧カラーコーディネーター講座 ⑨公務員講座 ⑩自主学习 他 自分の興味ある講座を選び、知識を深める為や資格取得を目的として受講する。
------	--	--

評価方法	出席を基本とし、受講する。
------	---------------

教科書 教材	教科書 専門のプリントを配布する。	教材	備考

その他	事前にどの講座を受けるのか、希望を取り、受講する。
-----	---------------------------